

週刊
1973年創刊

阿ることなく・恐れることなく

愛媛経済レポート

2020年(令和2年) 10月26日号 第2224号

愛媛の経済サイト



愛媛新聞社
×
EKRN 愛媛経済レポート

いよくぼのファーム

中予初「野菜畠で太陽光発電」

=小規模農家の所得向上の成功モデルを目指す=



民が共同で災害時に活用する。行政の支援が得られれば、地域住

同社はホウレンソウやブロッコリー、小松菜、白菜などを野菜や米を生産し、松山市内の産直市で販売する。自社農園で直売も行う。今年2月に法人化した。

同社の農園は里山の傾斜地にあり、農地の拡張による生産性向上は難しいことから、當農型太陽光発電に着目。設備投資額と予想される農業収入・売電収入をもとに長期的な収支計画を策定し、金融機関の協力を受けた。

112.5平方㍍の農地に支柱を立て、約3㍍の高さに太陽光発電パネルを設置した。パネルの総面積は約500平方㍍で容量は61.7kW。年間約7万300kWhの発電量を見込む。固定価格買取制度を活用し、全て売電する予定。

ノウハウの提供も

利用できるよう、蓄電池を設置したい考え。

農地面積の約4割が太陽光パネルで覆われるが、「トウモロコシなど常に日が当たることを好む作物以外は問題なく栽培できるはず」(篠原代表)という。季節に応じた野菜を栽培することで「ほぼ1年中、何かの収穫が可能」としている。

太陽光発電によりCO₂排出量も削減できるため、同社は収穫した野菜を「省エネ野菜」と名付けて販売していく計画。パネルの支柱部分については農地転用の許可を受ける必要があるが、同社の場合「中予ではパネルの下で野菜を育てていい前例がないなどの理由で、許可が下りるまでに2年掛かった」という。

同社は「農林水産省にも問い合わせたが、野菜を栽培するソーラーシェアリングは意外と少ない。当社が成功事例となり、小規模農家の所得向上に貢献したい」とし、将来的には資金計画や申請手続き、栽培技術などのコンサルティング事業も視野に入れる。

(同)いよくぼのファーム(松山市窪野町、篠原英行代表)は、自社農園で當農型太陽光発電事業を開始した。ホウレンソウやブロッコリーなどを栽培する農地に太陽光発電パネルを設置し、年間約7万kWhの電力を売電する。野菜を栽培しながら太陽光発電を行うのは中予初という。小規模農家の所得向上の事業モデルとして普及させたい考え。